

秋田県能代市に位置し、白神の地域農業を支える新拠点として新設された JA あきた白神の新本店では、多彩な LED 照明器具を採用。あかりセンサー、人感センサーを活用した自動照明制御により、使い勝手のよい光環境と省エネを両立しています。また、感染症対策として、ウイルス抑制・除菌用 UV 照射器 UVee (ユービー) も各所に導入しています。

JAあきた白神の新本店は、建設地近くのJAのしろ東支店と、1967年に完成し老朽化が進んだ旧本店(同市富町)を統廃合することで、財務の健全化と経営の安定化、組合員をはじめ地域住民の利便性向上を図ることを目的に新築されました。地域農業を支える新拠点として、各部会や講習会などにも利用可能な会議室、婦人部の集まりや農産物の試食会などにも対応するシステムキッチンを備えた多目的室も備えています。



【物件概要】
所在地：秋田県能代市一本木 47 番地
延床面積：1,956.50 m²
構造・規模：鉄骨造・地上 2 階建
施主：あきた白神農業協同組合
設計：全国農業協同組合連合会 東北広域施設事業所
施工：建築／中田建設(株)
電気／工藤電気工事(株)
竣工：2022 年 3 月



1階執務室エリア(金融共済部) 調光タイプの LED ベースライト TENQOO シリーズ埋込形①と「あかり+人感センサー」により省エネ効果を向上。

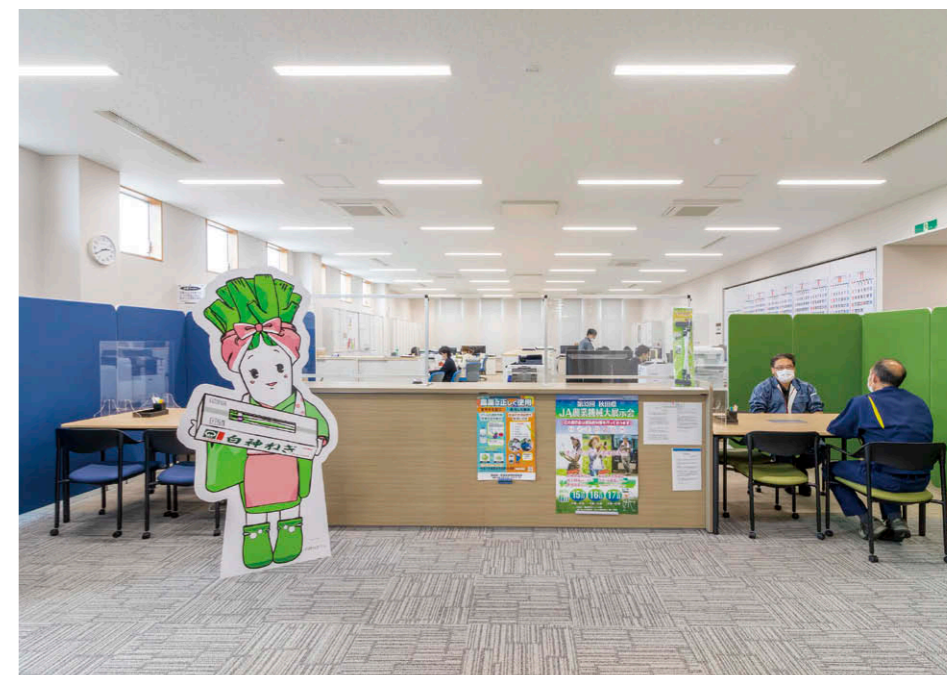
それぞれの空間に合わせた各LED照明器具を採用し、自動照明制御により省エネ効果をアップ。

営農部・経済部、金融共済部などの執務室エリアでは、机上面の照度を 500 ルクスとし、調光タイプの LED ベースライト TENQOO シリーズと「あかり+人感センサー」を採用。周囲の明るさを検知して器具の光量を自動コントロールすることで常に適正な照度を保ち、同時に人感センサーにより不在になったブロックは自動消灯することで、省エネ効果を一段と向上させています。また、下面開放 W100 タイプの器具とすることで、来客待合コーナーからのまぶしさ感も低減させています。

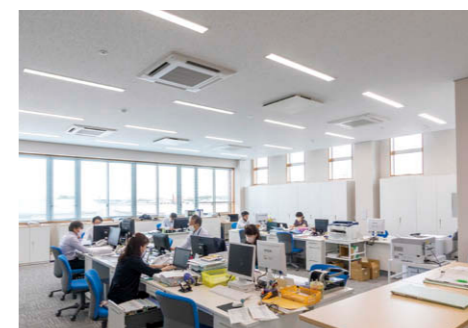
できる3つの会議室は、フレキシブルな使用に対応できるよう LED ベースライト TENQOO スクエア器具を均等配置とし、ムラなく均一な光環境を創出。机上面照度は 500 ルクスに設定し、プロジェクターなどの使用を考慮して調光タイプを導入しています。

廊下は、両側に会議室や事務室が並ぶ中廊下となっているため、温白色 3500K の LED ユニット交換形ダウンライトを採用。暖かみのある光環境により少しでもストレスを軽減できるよう配慮し、また視覚的にも先へ続くような直線感が感じられるようセンター配置としています。

可動式の間仕切りを開放することで約 300 m²の大会議室としても使用



1階執務室エリア(営農・経済部) LEDベースライトTENQOOシリーズ埋込形①の光量を「あかり+人感センサー」により自動コントロールし、人が不在となるブロックは自動消灯。



2階執務室エリア(企画管理部) LEDベースライトTENQOOシリーズ埋込形①を採用し自動調光。



会議室 可動式間仕切りによるフレキシブルな利用をふまえてLEDベースライトTENQOOスクエア②を採用。



多目的室 調理が行われる多目的室では LED ベースライト TENQOO シリーズ防湿・防雨形④を採用。



廊下 ストレス軽減効果を考慮し 3500K 温白色の LED ユニット交換形ダウンライト③を採用。



(左) LEDベースライトTENQOOシリーズ埋込形① (右) LEDベースライトTENQOOスクエア②

設置場所	器具名(品種名)	形名	台数	備考
執務室エリア	① LED ベースライト TENQOO シリーズ 埋込形 40 タイプ 下面開放 W100	LEKR410523N-LD9	81	消費電力：32.5W
大会議室	② LED ベースライト TENQOO スクエア パネルタイプ 埋込形口 450 深枠(白) パネル	LEKR745851UN-LD9	48	消費電力：43.0W
廊下 他	③ LED ユニット交換形ダウンライト 一般形 白色反射板 2000 シリーズ	LEKD203015WW-LS9	38	消費電力：13.4W
多目的室	④ LED ベースライト TENQOO シリーズ 防湿・防雨形 40 タイプ W120	LEKTW412324N-LS9	9	消費電力：19.5W
屋内	⑤ ウイルス抑制・除菌用 UV 照射器 UVee ユニバーサルダウンライトタイプ	UV-CU01007K-LS9	13	消費電力：19.3W (100V)



ATMコーナー 1階出入り口の風除室に設置されたATMコーナーでは風除室全体とATMのタッチパネルに向けてUVee⑤を配置。運転モードはすべて自動運転。



2階エレベーターホール エレベーター前は1階2階ともUVee⑤を設置し、人が触れる昇降ボタンを含めた空間に向けてUV照射。



企画管理部 来客窓口 人が対面する窓口上部に配置し、手が触れるカウンターまわりを除菌。

UV Interview | JA あきた白神 新本店



JA あきた白神の新本店では、感染症対策として、ウイルス抑制・除菌用UV照射器UVee(ユービー)を導入しています。新本店建設の背景と、衛生対策について、あきた白神農業協同組合、代表理事組合長の佐藤謙悦様にお話を伺いました。

訪れる人にも、働く人にも、少しでも危険を取り除く最大限の対策を。それが今、経営者に求められていること。

—今回の新本店建設について、背景をお聞かせください。

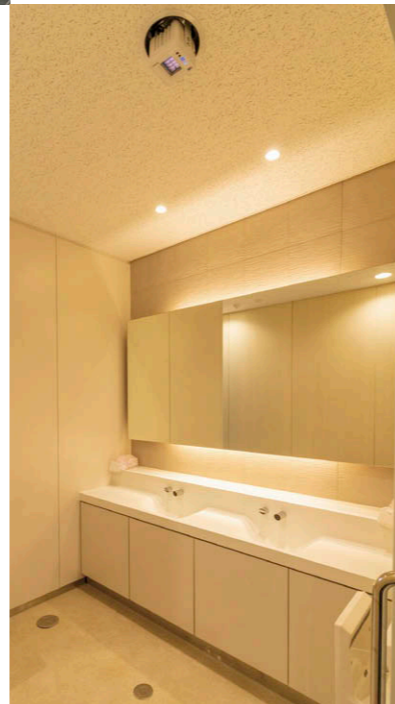
佐藤 まず、JAを取り巻く環境からお話すると、人口減少や高齢化によって農業の後継者は不足し、それによる組合員の減少や耕作放棄地の増加など、地域農業の継続が危惧される状況になっています。このような情勢のもと、JAは事業の縮小を余儀なくされていて、国による早期警戒制度の導入に伴い5年後を見据えた「持続可能な収益性」や「将来にわたる健全性」が求められています。自ら変わっていかないといけない状況にあるわけです。

JAあきた白神も、長い歴史のなかで変化を繰り返して、現在の体制となって30年近くになります。旧本店は、それよりもっと前の1967年に建てられた建物を使っていて、築50年以上を経過して老朽化していただけではなく、駐車場が10台分程度、会議室も狭く組合員を集めて会議を行うこともできませんでした。また、金融部門は離れた場所の出張所にあり、組合員にとっては不便でした。機能性という点でも、利便性という点でも、良い状態とは言えなかったわけです。

—新本店建設にあたってどのようなご苦労がありましたか？

佐藤 何よりも組合員の皆さんから理解されることが第一ですから、時間をかけて検討と議論を繰り返してきました。各地域で組合員の代表として選出されている理事の皆様から合意を得ながら進めていかないといけない。地域やエリアによって「どこの支店がなくなるのか？」という心配も当然生まれるわけです。また、新本店建設の必要性は納得されても、建設費やランニングコストはどうするのか？本店というのは収益の分析上、なかなか収益性があがらない部門になる。だから笑い話じゃないですけども、本店はプレハブでも良いのではないのか？という話も出たくらいです。JAの歴史の中で、本店の建設が計画だけで終わってしまう経緯を我々も何度も見てきました。

そうした中で、今回は異例とも言える地区を越えた交流が行われました。たとえば、能代地区の役員が藤里地区へ行って藤里地区の組合員の意見を直接聞くことができるような機会を設けることもできました。そうやって深い議論を重ねたうえで、支店の中では最も成績が



トイレ 女性用、男性用ともに手洗い場付近の天井に設置。



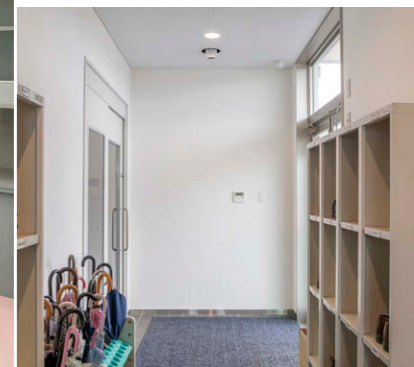
多目的室 不特定多数の人が利用するため出入口付近に設置し除菌。



通用口 通用口にも設置しUV照射。



ウイルス抑制・除菌用UV照射器UVee(ユービー)ユニバーサルダウンライトタイプ⑤



良かった「のしろ東支店」と「旧本店」を統廃合することでランニングコストの問題を解決し、また、建設場所としては以前から取得していたこの場所が高速道路の敷設で非常に便利な立地となったため、この場所にしよう、といった方向性で合意に至りました。変革の時期に来ている時代背景や、職員の皆さん、携わってくれた皆さんの頑張り重なって実現した新本店と言えます。

—新本店の特徴について教えてください。

佐藤 これまで離れた場所にあった信用・共済店舗と、営農・経済部が集約化されたことで、利便性が大きく向上しています。敷地内には農

機の修理工場、農機課もありますので、ワンストップでいろいろなことが一度に片付きます。職員にとっても、金融共済部と営農部・経済部との業務連携がスムーズになりました。

また、コロナ禍にあって建てた建物として衛生対策も考慮しています。国や県はただ基準を示せば終わりかも知れませんが、最終的には我々現場の毎日の問題ですから、できる限りの対策は自分たちでとっていかないといけない、それが今求められていることだと思います。—県内でもいち早くUVee(ユービー)を導入されたそうですね。

佐藤 やはり我々は来店されるお客様、組合

員ももちろん大事にしていますが、毎日働いてくれている職員のことは本当に大切にしたい。その意味では、特別な操作をすることなく、放っておいても自動でウイルス抑制・除菌をしてくれるという仕組みは、訪れる人にも、働く人にも安心できる環境を創ることができると思います。人が集まる場所、働く場所での危険を想定して、その中で一つでもそういうものが取り除かれていけば、経営者として、それに代えられるものはありません。—本日はお忙しい中、貴重なお話を伺えました。ありがとうございました。

(2022年8月26日 取材)